

平成30年度 学校自己評価表 (計画段階・実施段階)

学校番号

福岡県立明善高等学校長 印
全日制課程

64

学校運営計画 (4月)				評価 (総合)
学校運営方針	本校の教育の目的は「知力を以て社会に寄与する人材を育成する」ことにある。この目的を達成するため、「高い志」「豊かな人間性」「確かな学力」を高める主体的な学びを通して、確かな価値観に立脚したグローバルリーダーを育成する。			
昨年度の成果と課題	今年度重点目標	具体的目標		
SSH事業2期目一年次取組では、これまでの理数科、総合文科コース中心の取組を広げ、平成29年度入学生から、普通科では学校設定教科「STL総合」の科目「STL探究I」において課題研究に取り組み、課題研究を明善生の“学び・思考のオリエンテーション”と位置付けた。 本年度は、第2学年普通科の「STL探究II」の指導及び評価方法等の改善を図り、課題研究の全校体制を定着させる。また、質の高い「学ばせ方」を研究し、教育活動全体をととして、リーダーに求められる資質・能力を高め、明るくタフな明善生の育成に努める。	人生や社会を切り拓くことのできる能力と態度を育て、「志の育成」に努めるとともに、主体性の質を高めるべく、キャリア教育を推進する。	○職業観育成講座や大学セミナーなどの実施を通して、生徒の志の育成を図り、自らの進路を切り拓くことのできる積極的な生徒を育成する。		
	「深い学び」に導くことのできる「質の高い授業」の創造を目指し、教科マネジメントの充実を図り、確かな学力の育成に資する。	○教科マネジメント力の強化と教科指導の系統性の確立を図り、生徒の学力向上に繋げる。		
	学校への帰属意識を高め、自他を認め高め合う共感的な人間関係や、人権尊重の精神・自律心・思いやりの心を育て、いじめ撲滅に資する。	○清掃活動やボランティア活動を通して望ましい勤労観や職業観を育成する。 ○学校行事等をととして状況把握・判断・対応する能力、良質なコミュニケーション能力を育成する。 ○教育相談や面談等、全ての教育活動の中で望ましい人間関係力を育て学校への帰属意識を高める。		
	SSH事業を充実させるとともに、海外修学旅行、SSH海外研修、総文コース海外研修等、国際交流の機会をととして、グローバルリーダーの育成を図る。	○「STL探究I」「STL探究II」の指導体制を改善し、生徒が意欲的に課題研究に取り組むようにする。 ○生徒の旺盛な知的好奇心を生かした探究活動を推進する。 ○語学力を超えた真のコミュニケーション能力の育成を図る。		
	学校広報紙、ホームページ等を充実させ、積極的な広報活動をととして、地域保護者や中学校から信頼される開かれた学校を目指す。	○学校評議員の意見や保護者会のニーズに応える教育実践で、より満足度の高い学校を目指す。 ○生徒の頑張りや教師の実践を積極的に広報・発信し、信頼される明善高校を作り上げる。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務	授業改善を行い、家庭学習を充実させるとともに、観点別評価に基づいた評価を行うことで、確かな学力の育成を図り、生徒の学力を向上させる。	授業アンケート(2回)・学習時間調査等の分析により、指導法の改善に努める。		
		学習リサーチから読み取れる課題を明確にし、指導の在り方を検討する。		
	各分掌との連携を密にし、教育活動の円滑な運営を図り、より充実した学校作りを努める。	新しい教育課程の成果と課題の分析を通して、指導改善に繋げていく。		
		企画推進会議を実施し、分掌間の連携を密にし教育活動を充実させる。 保健室・学年と連絡を密にとり、生徒の状況を早期かつ的確に把握する。 各教科と連携し、評価について適宜点検・検討を重ね、教育効果を高める。		
庶務広報・情報	早めに計画・立案することで、事前準備を徹底し、式典や各種行事を円滑に実施する。	式典係、保健体育科、学年、各分掌、事務室と連携を密にする。 保護者会・同窓会と連携し、各種行事を実施する。 行事毎に詳細な記録を残し、改善点を明確にして次につなげる。		
		生徒の活動状況を積極的かつ迅速に発信することで広報活動を促進するとともに、校務用パソコン・LANの適正な管理と運用を行う。		
	広報誌「楽天」「別冊楽天」を充実させ、学校案内には生徒の視点を加える。	ホームページを随時更新するとともに、掲載内容の見直しを進める。 職員・生徒の情報に関するセキュリティ意識の向上を図る。		
		SSH事業の目的を全職員で共有し、全校体制で運営と指導に当たる。 全生徒が取り組む課題研究の在り方や評価方法を検討する。 課題研究の充実を図り、問題解決能力高めることで学習意欲を向上させる。		
SSH (スーパーサイエンスハイスクール事業)	各事業内容を充実、活動の推進を通して、科学技術系人材の育成を目指す。	校外研修について、よりその効果が表れるよう内容を改善し実施する。 生徒の志望動向や進路実績等をもとに、SSH事業の効果を分析する。 研究開発の成果を広く発信し、外部からの評価・指導を受ける。		
		1年次「東大京大訪問」を実施し、進路意識の向上や進学意欲の向上を図る。 校外研修(理系施設訪問等)および出前講義等を充実させ、各分野での興味関心を引き出す。 課題研究の充実を図り、問題解決能力およびプレゼンテーション能力の伸長を促す。		
	理数科と教科・学年・分掌との連携を密にする。また、外部への効果的な広報活動を実施する。	生徒の学習・生活状況等について、理数科担当教員間の情報交換を密にする。 中学生に向けての事業(体験入学、進路相談事業)を効果的に活用する。 理数科案内、理数科通信、HPを効果的に活用し、情報発信する。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
総合文科 コース	コース独自の行事の精選、内容の充実・特性化を図り、志の育成と学力の向上を図る。	目的・意図を明確化した出前講義を充実させ、社会・世界への関心を養う。		
		アメリカ合衆国研修や校外研修を充実させ、世界を考える視点、社会貢献の精神を養う。		
	コースを活性化すると共に、人と人をつなぐ意識を育成する。	授業内容の差別化を図り、一層の学力向上及び難関大受験への意欲を向上させる。		
		入学直後、及び年間を通して学校行事への主軸役員としての参加意欲を高める。		
進路指導	進路目標達成に向けての取組を充実させる。	出前講義・校外研修全てにおいて、講師への事前・事後の対応を丁寧に行い、次年度に繋げる。		
		「明善学」の基礎作りを模索すると共に、英語課題研究の内容の充実を図る。		
	キャリア教育と学年に応じた進路指導を充実させ、進路意識の高揚と確かな学力の養成をめざす。	学年・教科・部活動との連携を密にし、学習意欲を向上させ主体的に学習に取り組む態度を養う。		
		模試分析会、志望校検討会等を充実させ、各学年の課題、指導方針について全職員で情報を共有する。		
第1学年	自立した主体的な学習習慣を育成し、進路意識を明確化する。	課外・3年生放課後課外・土曜教室・特別講座等の運営について評価・改善を重ねる。		
		ホームルーム活動の時間を有効に活用し、3年間を見通した計画的進路指導を行う。		
	学校行事や部活動への積極的な参加を促し、文武両道を目指させる。	大学セミナー・職業観育成講座・各種セミナーを通じて主体的に生きる態度を養う。		
		小論文、弁論大会等の取組をとおり、言語活動の充実を図り、表現力・コミュニケーション能力を身につけさせる。		
第2学年	「品位・品格」を伴った生活態度を身につけさせ、出席皆勤を目指し、学校行事で積極的役割を果たさせる。	様々な取組を通して、将来の自らの在り方について考えさせる。		
		予習や復習を習慣付けさせ、計画的で主体的な学習ができるように指導する。		
	高い志と進路意識を持たせ、積極的に学習に取り組ませることで学力を伸ばす。	新しい大学入試問題に対応できる学力の育成を目指す。		
		部活動へ積極的に入部するように勧める。		
第3学年	最上級生としての品位と規範意識を確立させるとともに、周りの人や社会に貢献できる心身ともに逞しい明善生を育成する。	学校行事へ主体的に積極的に参加する態度を育成する。		
		リーダーシップやフォロワーシップを育成し、協調性を養う。		
	高い志をもって積極的に学習に取り組ませ、自己の進路実現を果たさせる。	他人への尊敬の念や感謝の気持ちを表すことを忘れず、各自が互いに高めあう集団になるよう導く。		
		時間厳守、挨拶、身だしなみ、清掃に対する姿勢を身につけさせ、自ら考え自らを律するよう指導する。		
生徒指導	豊かな人間性をもち主体的に行動し社会に貢献できる生徒の育成。	リーダーの育成に努めるとともに、個人が積極的に自らの役割を果たすよう指導する。		
		修学旅行を含む様々な行事を通して見聞を広めさせ、自らの進む道を考えさせる。		
	社会規範に対する理解の深化やいじめ撲滅のための判断力や実践力を身に付けさせる。	予習・復習・家庭学習を充実させ、授業中心の学習を徹底させる。		
		キャリア教育、模試、面談等を活用して進路意識を持たせ、学習に積極的に取り組ませる。		
保健	生徒の心身の健康状態を把握し、健康管理・健康教育を充実する。	挨拶、時間厳守、端正な服装、清掃活動について、自律した行動ができるように指導する。		
		学校行事、部活動において、積極的に参加する生徒やリーダーシップが発揮できる生徒を育成する。		
	環境美化に対する意識高揚のため、済美委員会の活動活性化を図る。	受験勉強等を通して、不安や困難に打ち勝つ強い心と平常心を育てる。		
		面談や進路講演会を通して進路意識を高め、自己の進路実現に向けて努力させる。		
図書・研修	図書委員会活動を活性化させ、生徒の読書意欲を喚起し、増進させる。新図書館の利用の充実を目指す。	学校を中心とした学習活動に積極的に取り組ませ、家庭での学習時間を確保させる。		
		生徒の学力推移や学習状況を学年会や模試分析会等で、随時確認し、指導の方向性の共通認識を図る。		
	職員研修や課題研究を通して、教科専門性や指導力の向上を図るとともに、人権教育の更なる充実を図る。	生徒会活動の活性化		
		部活動の充実		
図書・研修	図書委員会を月1回程度開催し、「図書館だより」などの委員会活動を充実させる。	スマートフォンやSNSの適正な使用		
		政治参加教育の推進		
	研究授業や教科別に課題研究を行うことで教科指導力の向上を図る。	マナー教育の徹底		
		健康診断・身体計測の結果をもとに助言を行い、生徒の自己管理能力を育成する。		
図書・研修	朝読書や読書会等の図書の行事を充実させ、生徒の読書への関心を喚起させる。	校内で情報共有を図り、心の相談等専門医や学校医と連携し、生徒を支援する。		
		「午睡推進Day」を定期的に設けて、より主体的な午睡ができるように環境整備を図る。		
	生徒の実態に即した新図書館利用のあり方を考え、利用者の増加を目指す。	「塵一つない環境」の実現に向けて、生徒がより主体的に行う日々の清掃を目指す。		
		「美化週間」を学期一回設け、済美委員会を中心に、各掃除区域を自治で管理する体制をつくる。		
図書・研修	研究授業や教科別に課題研究を行うことで教科指導力の向上を図る。	「心を磨くトイレ掃除の会」を年1回実施し、一層の美化意識の涵養を図る。		
		校内研修の充実を目指すとともに校外研修への参加を推進する。		
	生徒の実態に応じた人権教育を充実させるとともに教職員の意識および指導力の向上を図る。	図書委員会を月1回程度開催し、「図書館だより」などの委員会活動を充実させる。		
		朝読書や読書会等の図書の行事を充実させ、生徒の読書への関心を喚起させる。		